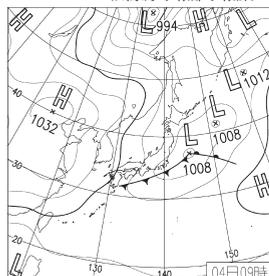


# 日々の天気図

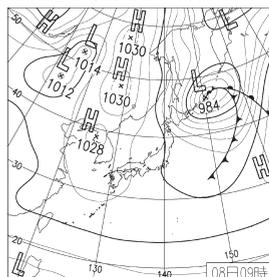
— No. 142

## 2013年11月

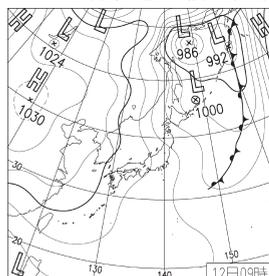
- ・4日に近畿地方、11日に東京地方で木枯らし1号。
- ・4日に台風第30号、14日に台風第31号発生。年間発生数30個以上となったのは1994年以来19年ぶり。
- ・28～29日、強い寒気が南下し、西日本や北陸の各地で初雪。奈良は1954年の統計開始以来最早記録。  
(気象庁予報部予報課)



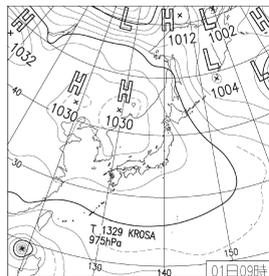
**4日(月)近畿で木枯らし1号**  
トラック 諸島近海で台風第30号発生、年間発生数30個以上は1994年以来19年ぶり。日本付近は次第に冬型の気圧配置となり、近畿で昨年より6日遅い木枯らし1号を発表。



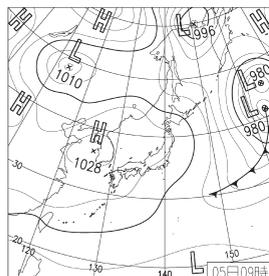
**8日(金)札幌などで初雪**  
西～東日本は高気圧に覆われて晴れ、北日本は低気圧の発達により一時的に冬型の気圧配置となり風が強まる。北海道えりも岬で最大風速30m/sの猛烈な風。札幌・網走・稚内で初雪。



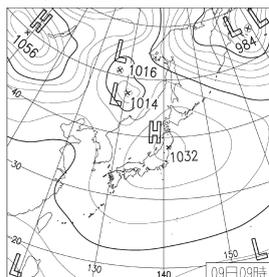
**12日(火)青森で日降雪量37cm**  
日本付近は強い冬型の気圧配置。新潟・福島で初雪。関東中心に初霜、初水、初冠雪。朝の最低気温は平年より低く北海道市別市九十九東で-12.8℃、-10℃以下は今季内初。



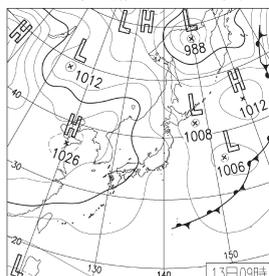
**1日(金)高気圧に覆われて晴れ**  
高気圧に広く覆われて九州から東北まで概ね晴れ。沖縄・奄美では台風第29号の外側の雲により曇りや雨。北海道は寒気の影響により一部で雨。沖縄県国頭村奥で日降水量112.5mm。



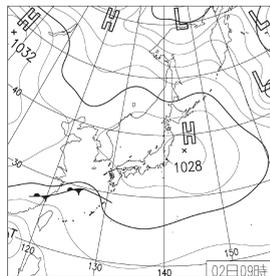
**5日(火)全国的に晴れ**  
移動性高気圧に覆われて全国的に晴れたが、午前中は日本海側で寒気の影響が残る。曇りや雨の所も。北日本は気温が上がり、最高気温は平年より高め。盛岡市でイチョウ黄葉。



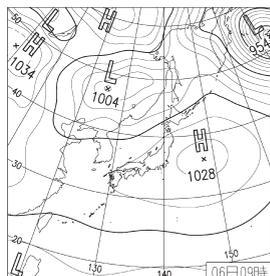
**9日(土)北日本冷え込む**  
北日本では寒気が残り、朝の最低気温は11月中旬～12月上旬並。山形・函館・網走で初水。千葉県銚子で夜遅くに31.5mm/1hの雨。北海道利尻空港で最大瞬間風速24.7m/s。



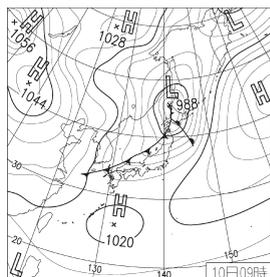
**13日(水)気温の低い一日**  
上空の寒気と冬型の気圧配置により北日本は雪や雨。青森県酸ヶ湯は積雪深72cm。気温は全国的に低く、全国の4割以上376地点で冬日。富山で初雪。宮城県蔵王山などで初冠雪。



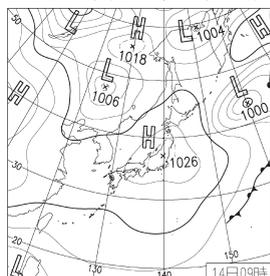
**2日(土)北日本冷える**  
前線の影響で西日本～東海は曇り、太平洋側の一部で雨。関東は気圧の谷の影響で曇りや雨。北日本は高気圧に覆われ晴れて、最低気温は平年より低め。盛岡・釧路で初水。



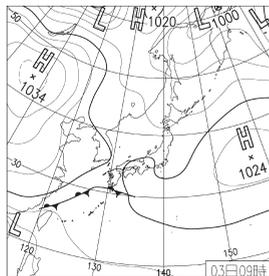
**6日(水)高気圧に覆われる**  
北海道日本海側は気圧の谷の影響で曇ったが、その他の地域は高気圧に覆われて概ね晴れ。高気圧の東進に伴い、午後は西日本から次第に曇り。福島市でイチョウ黄葉。



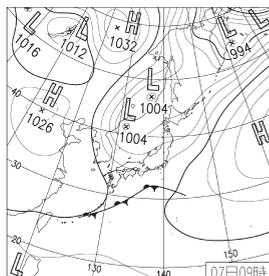
**10日(日)北日本で大荒れの天気**  
発達中の低気圧や前線により北日本で暴風。九州で非常に激しい雨。長崎県老姥空港で76.5mm/1h。11月の1位更新。北海道えりも岬で最大瞬間風速42.7m/s。茨城県で震度5弱。



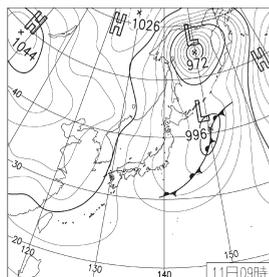
**14日(木)移動性高気圧**  
日本付近は移動性高気圧に覆われ風弱く晴れ。放射冷却により、奈良・名古屋・熊谷・福島・仙台で初水。沖縄・奄美は湿った南東の気流により雨。南シナ海で台風第31号発生。



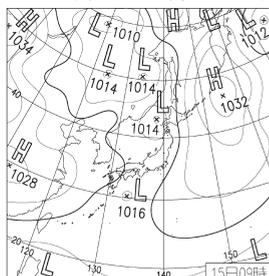
**3日(日)西日本を中心に雨**  
九州は朝から雨。前線に伴う雨域の東進に伴って午後は西日本～東海・北陸で雨。長崎県五島市市場町で40.5mm/1hの激しい雨。茨城県南部を震源とする最大震度4の地震発生。



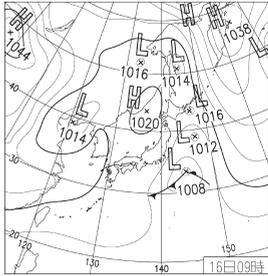
**7日(木)気圧の谷、各地で雨**  
深い気圧の谷の通過に伴い本州南岸に前線発生。東～北日本では雨の所が多く、東京都新島川原で58mm/1h。青森県大間で最大風速17.5m/s。観測史上1位更新。秋田市で雹巻。



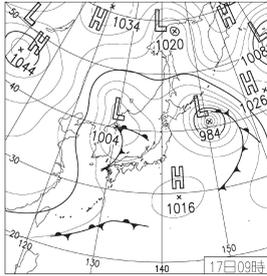
**11日(月)東北で初雪**  
北日本に強い寒気が入り、山陰～北陸や北日本の日本海側を中心に雨や雪。仙台をはじめ東北の5か所で初雪。先島諸島は湿った気流の影響で曇りや雨。東京地方で木枯らし1号。



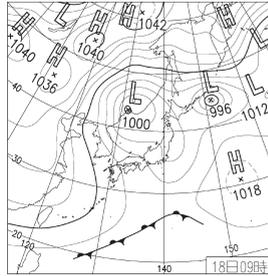
**15日(金)西日本～北日本で雨**  
日本海と本州の南海上の低気圧により、西日本から北日本の各地で雨。最高気温は、東日本を中心に平年より5℃前後低め。青森県東方沖の地震により青森県で震度4。



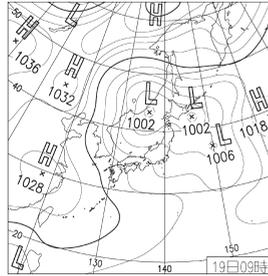
**16日(土)小春日和**  
 沖縄・奄美は湿った気流の影響で曇りや雨。九州～北海道は、日本海側の一部や北海道東部で、はじめ雨が残ったがその後広く晴れて小春日和に。夜、関東で最大震度4の地震。



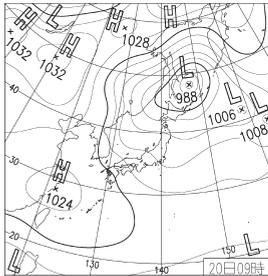
**17日(日)寒冷前線通過**  
 北海道東部は東海上の低気圧の影響で雨。西日本日本海側と北陸は寒冷前線で、東海・関東の沿岸部は暖かく湿った空気の流入で雷雨。長崎県対馬市浦溝で最大瞬間風速21.6 m/s。



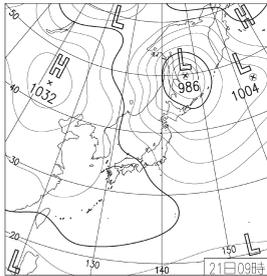
**18日(月)日本海側で大気不安定**  
 寒気の流入により、西日本や東～北日本の日本海側は大気の状態が不安定となり、局地的な雨や雷。金沢で最大瞬間風速26.7 m/s。松江で初雪。愛媛県皿ヶ峰で初冠雪。



**19日(火)寒気流入続く**  
 西～東日本の日本海側と北日本で降水が持続。石川県宝達志水で日降水量85 mmとなり、11月の記録を更新。九州から四国の各地の山で平年より早い初冠雪。新潟・秋田でひょう。



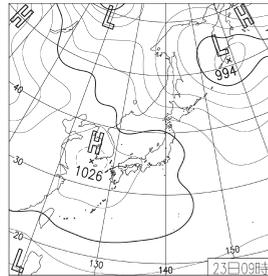
**20日(水)冬型の気圧配置続く**  
 発達した低気圧がオホーツク海にあり冬型の気圧配置が持続。日本海側を中心に雨や雪。北海道は強い寒気の流入がなく、気温は平年より高めに経過。福井でひょう。



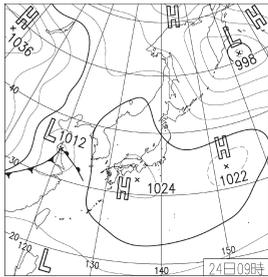
**21日(木)北日本、冬型続く**  
 西日本は冬型緩んだが北日本は寒気流入持続。西～東日本太平洋側は晴れた所が多いが、日本海側は曇りや雨。北日本は雨や雪。新潟県長岡で日降水量98.5 mm、11月の1位更新。



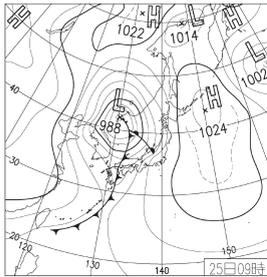
**22日(金)移動性高気圧 黄海へ**  
 北日本は冬型が続き、日本海側で弱い雨。西～東日本は高気圧に覆われ太平洋側は晴れ。静岡で平年より6日早く初霜。松山・松江・大阪・奈良・水戸・仙台各所でイチョウ黄葉。



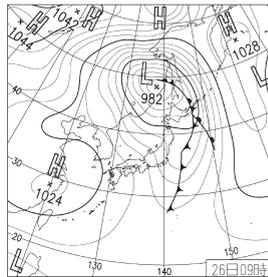
**23日(土)九州各地で初霜**  
 移動性高気圧に覆われて概ね晴れ。放射冷却が強まった西日本では朝の最低気温が平年より低く、九州・中国の山間部では氷点下の地点多数。熊本・長崎・佐賀で初霜。



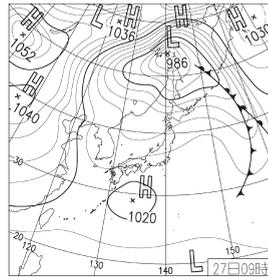
**24日(日)全国的に晴れ**  
 全国的に晴れて西日本で朝の冷え込み強まる。鹿児島県奄美市笠利の最低気温9.3℃は11月として最低記録。徳島市・神戸市でカエデ紅葉。佐賀市・東京都千代田区でイチョウ黄葉。



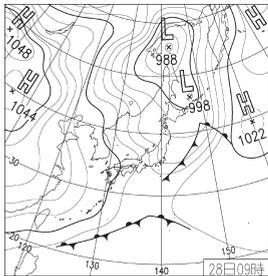
**25日(月)西日本～東日本で暴風**  
 寒冷前線が東進。前線の東側では南寄りの風が強まり、西～東日本の所々で暴風となった他、沖縄～関東の広い範囲で竜巻注意情報を発表。室戸岬で最大瞬間風速33 m/s。



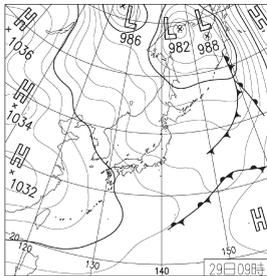
**26日(火)全国的に冬型**  
 西日本の日本海側は曇りや雨、北陸～北日本は雨や雪。東海・関東を中心に晴れ。北海道鶴居では明け方の前線通過時に32 mm/1hの激しい雨。11月の記録を更新。



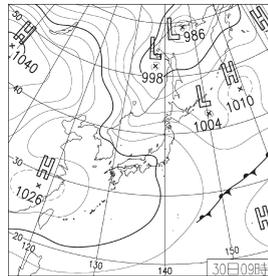
**27日(水)北日本、寒気残る**  
 太平洋側は概ね晴れ。日本海側は曇りや雨となり、北海道では雪。西日本では雷を伴った所も。朝の最低気温は、沖縄・奄美～西日本で平年より低く、所々で真冬並に。



**28日(木)西日本各地で初霜**  
 再び冬型の気圧配置となり日本海側は雪や雨。低気圧の通過で北海道は雪。西日本は最高気温が平年より低く福岡・下関・松山・広島・鳥取・福井・金沢で初雪。鹿児島県桜島で初冠雪。



**29日(金)真冬並の寒気が南下**  
 冬型気圧配置が持続。特に沖縄・奄美、西日本を中心に、平年より気温の低い所が多く、国内36地点で日最低気温の11月の1位を更新。大阪・奈良で初雪。奈良は最早記録。

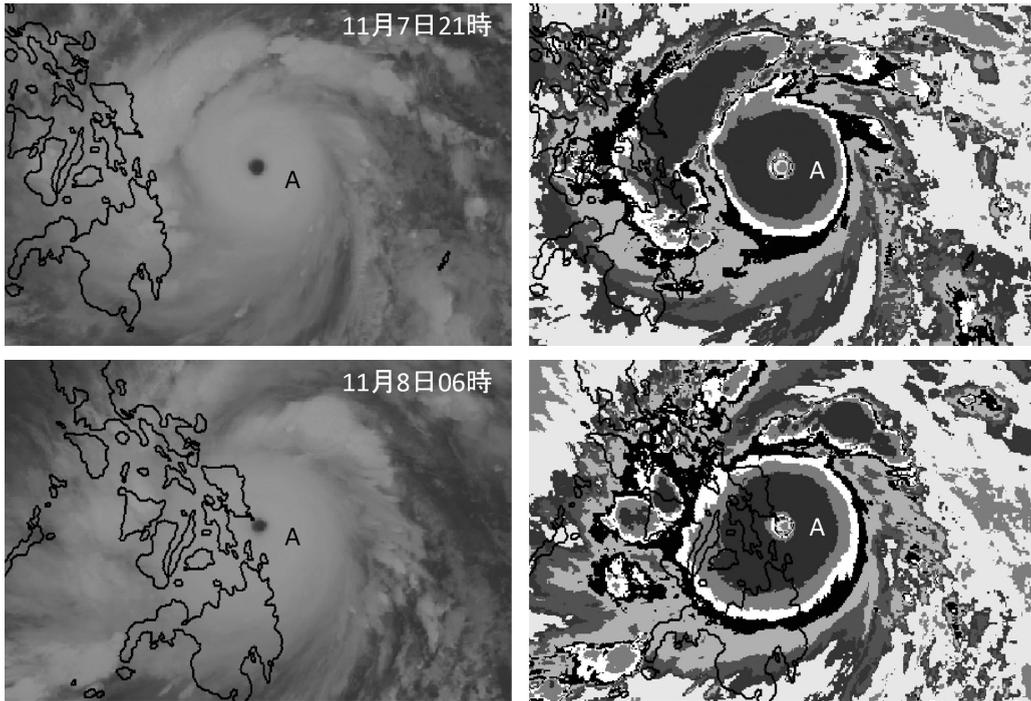


**30日(土)西から冬型緩む**  
 冬型の気圧配置は西から緩み、北日本日本海側を除いて概ね晴れ。沖縄・奄美～東日本では低温が持続。14地点で日最低気温の11月の記録を更新。宮崎・静岡・横浜で初氷。



## 今月のひまわり画像—2013年11月

### フィリピン中部に大災害を招いた台風第30号



第1図 2013年11月7日21時（日本時間）、8日06時の赤外画像（左）と強調赤外画像（右）、記号については本文参照。

レイテ島を中心に死者5000名以上という極めて大きな被害をもたらした台風第30号は、2013年11月8日にフィリピン中部を猛烈な台風のまま通過した。今回は、この台風の最盛期から上陸直前までを細かく見ることにした。

ドボラック法は、衛星画像から台風などの強度を推定する方法で、CI数とよぶ指数を使って台風等の強度を表す。CI数は1.0から0.5刻みに8.0まであり、8.0が最も強い。CI数が8.0に達する台風は少ないが、台風第30号は、6日から急速に発達し、7日21時にCI数が8.0に達した。第1図の上段は、同時刻の台風第30号の赤外画像（左）と強調赤外画像（右）である。強調赤外画像とは、赤外画像上の等価黒体温度を9つの温度帯（階調）に分け、それぞれの階調に濃淡の色合いを割り当てて、画像として表示させたものである。この時刻の強調赤外画像によると、台風第30号の眼は9°Cより暖かい階調で占められているのに対し、眼の周囲は-81°Cより冷たい階調が厚く（最狭幅

110 km）ドーナツ状に取り巻いている（図中のA）。ドボラック法では、眼が暖かいほど、また、眼を取り巻く階調が冷たく、かつ幅が広いほどCI数は大きくなる。2011年の台風第1号まで遡って調べてみても、9°Cより暖かい眼のまわりを-81°Cより冷たい階調が、60 km以上の幅で取り巻いた台風はなく、台風第30号は衛星画像からここ数年のうちで最強の台風といえる。第1図下段は台風第30号がフィリピン中部に迫った8日06時の赤外画像（左）と強調赤外画像（右）である。第1図の上段と下段を比べると、台風第30号が、極めて強い勢力を維持したままフィリピン中部に達したことがわかる。

台風の中心気圧は上陸直前に895 hPaであった。フィリピンに895 hPa以下で上陸した台風は、1951年以降2個（1987年第9号（895 hPa）、2010年第13号（885 hPa））しかなく、最強クラスであった。

（気象庁予報部予報課 野中信英）